

第1回

偶数手ばか詰作品展

解答編



開 催： 平成19年10月 1日

解答締切： 平成19年10月31日

解答発表： 平成19年11月 1日

たくぼんの解図日記

<http://takubon-tumeshougi.269g.net/>

第1回偶数手ばか詰作品展の解答編です。解答者は13名と嬉しい悲鳴を上げるほどでした。

作品はまだまだ創り手も手探りの状態といった感じで今後どのような作品が生まれていくのかが楽しみといえは楽しみです。

偶数手ならではの構想や趣向。まだまだ始まったばかりの偶数手の世界ですのであなたも是非創作・解図にチャレンジ頂き感覚を身につけてみてはいかがでしょうか？

解答者13名の反応を見る限り楽しんでいただけたようですので第2回の開催を決定します。

第2回偶数手ばか詰作品展

開催日：平成19年12月1日

投稿締切：平成19年11月30日

解答締切：平成19年12月31日

解答発表は未定

ルールは「偶数手ばか詰」、
手数は無条件で打歩や持駒制限などの条件付OK。
ただし他のルールとの併合はダメとします。

FM 使用環境に無い方はこちらで検討協力致しますのでお気軽にご依頼下さい。

【ルール説明】

偶数手ばか詰

通常のばか詰（先後協力して最短手数で、受方の玉を詰める）と同じですが初手後手（玉方）より指し始めます。

偶数手打歩ばか詰

偶数手ばか詰で最後必ず打歩で詰上ること。打歩以外で詰上る手は禁手。

第1番. 中村雅哉 作 正解者 13名

偶数手ばか詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲銀
									二
									三
									四
									五
								角	六
							飛		七
									八
					王				九

【作意手順】

48玉 59銀 49玉 29飛 迄 4手

【作者コメント】

もう1作が駒数が増えたので、少ない駒数で狙いをシンプルに表現したかった。両王手の詰上がりは見えているので、素材の域を出ないかもしれない。中村原案に、たくぼんさんのアドバイスを受け修正した作品。

★作者から最初送られてきたのは、38玉型で玉方47角、69飛が配置されていました。それは両王手や、初手駒打ち～開き王手でそれを取る紛れを考えてのことでした。が、解答者は4手では駒を取る手は読まないこともあり39玉だと駒数が2枚減ると言うことでこちらの図を選ばれました。詰上りを考えれば解くのは難しくはありませんが、初手の玉移動が意外だった方もいたようです。何となく玉の逃げ場を玉方の駒で塞ぎたい気はしますよね。聞いたところによると青森のK坂氏は6番はすぐ見えたが1番に苦労したとの事。余詰との戦いになる偶数手ばか詰ではこのような簡素な作品は貴重品だと思います。

ではありませんが、邪魔駒消去は好きなので○。

★16には金物が要りますし桂は品切れにする必要があり、一石二鳥の配置と言えます。

飯山修ーなし

隅の老人Aー桂が5枚有ればなあ、も考えました。

冬眠蛙ー4桂配置の意味を考えればカーンタン。

KAMUー邪魔駒の飛車をどう取らせるか、ですね。

赤土陽一ー邪魔駒消去のための歩の発生。今度こそ歩は主役になれたのでしょうか？

★課題が「歩が主役」は九州Gです(笑)。

第3番. 赤土陽一 作 正解者12名

偶数手ばか詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲なし
									二
									三
									四
				角	遊	遊	王		五
							卒		六
									七
									八
									九

【作意手順】

24玉 46角 35飛右 同角 14玉 13飛迄 6手

【作者コメント】

もともと詰め上がりから逆算して作ったのですが、33角や37角からの合い駒入手を誘い手を匂わすことができたのは収穫でした。ただ16歩は少し不満です。横に利くと余詰(例えば、と金だと、37金、同角、26と、同角、16玉、17金まで)が発生してしまうので、仕方ありませんねえ。では、よろしくお願ひします。

★最近各所でばか詰を発表されている若手です。

今後に大いに期待できますね。本作は詰上りが飛と角の定番中の定番の詰上りではありますが、初手33角成や37角といった紛れを見せ初手の玉移動を見えにくくするなど工夫されています。16歩が残念な配置ですが、角にしても27角生、37角、26金、同角、16玉、17金などで余詰んでしまうので仕方ないですね。

【短評】

中村雅哉ー飛の取り方がなかなか見えなかった。

橋本孝治ー平凡な24玉が却って盲点。どうしても2筋や3筋に駒を置きたくなります。飛角図式を目指した作だったのでしょうか？

癩癩老人ーなし

香箱ーなし

隅の老人Bーばか独特の移動捨合。馴れば一目、嘘ですよ。

小林看空ー33金などの手が目につくが初手単に玉が動くとは意外。対称にあらず。

真Tー16歩が残念な配置。

小峰耕希ー2手目33角の紛れを延々読まされる。好きな部類の作品ではありませんが、作者が盲点狙いなら成功作。

飯山修ーなし

冬眠蛙ー16歩外してツインに…って流石に怒られるか。

★余詰がいろいろありますね。16歩の替りに角をどこかに置いて完全作になればいいのですがダメのようです。

KAMUー玉と角をぐるっと回すような手順。苦戦しました。



第4番. 神無太郎 作 正解者 11名

偶数手ばかり 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲香
									二
									三
									四
							進		五
								弓	六
						角	王		七
								卒	八
									九

【作意手順】

36桂 29香 28桂成 同香 17玉 29桂
迄 6手

★2番同様、初手に打った駒を動かす手順ですが、こちらは少し凝っています。29香と打つと想定し28に何を合駒すれば詰むのか考えれば桂という答えはすぐに出てきます。

しかし28桂合とは出来ませんのでちょっと技を使います。つまり桂を置駒にして移動合にすればいいわけ。一寸考えれば答えを見つけるのは難しくありませんがなるほど！と書いていただければ作者は満足と思います。

【短評】

橋本孝治—こちらも神無太郎氏らしい作。駒の制限のための配置がない分、第2番よりすっきりした感じ。

癩癩老人—桂合で詰ましてから考える。あ、桂合はできないか。

香箱—なし

隅の老人 B—香を打つ、合駒は？これで解決。口で言うのは易しいけれど、ね。

小林看空—28桂合を実現させるアイデアは見事。太郎氏とは波長があう。

真 T—初形6枚で安心しました。

★実は太郎氏の投稿の後、真 Tさんから同様の筋の作品が投稿されました。さすがに同じ構想です（真 T作には飛生がありますが）ので、作者にはその旨連絡し作品を入れ替えていただきました。真 Tさんは太郎さんがこの構想を5枚以内の駒で実現しているか気にされていたみたいで同数の6枚でしたので安心されたというわけでした。

真 T作 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲香
									二
									三
									四
									五
								弓	六
						銀	驃	王	七
						進			八
									九

★この作品も飛生も入り太郎さんの作品と変わらず素晴らしいと思います。

小峰耕希—2番と並べた方が、初手の対比と最終手の統一が際立って良かったと思うのですが...

★まあ並べるほどででは無いと判断しましたがどうだったか。

飯山修—なし

冬眠蛙—これは瞬間的に解けました。気持ちいいいい。

KAMU—これも詰み形が見えて簡単でした。

★変に凝らないところが太郎流ですね

赤土陽—成桂合ができたらず詰むのに...

★裏返した駒も打てるという条件のフェアリールールってなかったけ？

第5番. 真T 作 正解者 12 名

偶数手ばか詰 6 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲ 角
									二
									三
									四
									五
									六
				銀	桂	歩			七
				玉	王	遊			八
						遊			九

【作意手順】

92 角 83 角 39 玉 38 角成 同角生 48 銀
迄 6 手

【作者コメント】

狙いは遠打です。双玉である必要はないのですが
…。

★5 番と構想が被った作者が快く差し替えに
応じて頂き届いたのが本作。さすがに狙いを的確に
表現されており解答者からは絶賛されました。さ
すがに今一番注目されている作家ですね。

玉位置と雰囲気から角の遠打は慣れた人なら気
配を察することが出来るかもしれません。

攻方は 83 (92) 角、39 玉、38 角成、同○、48
銀となるような手順が想定でき、壁の 28 飛 29
銀は動けないので 38 角成を取る駒を初手に配置
するという手順が見えてきます。最終手 48 銀を
取られないように横に利かない駒という条件で
すから、歩香桂銀角が該当。しかし歩香は置く場
所が無いし、桂は成らざるをえないのでダメ。銀
は王手になるのでダメ (27 歩が無いと 27 銀が成
立…他の余詰もありますが) というわけで角と
いうことになるのですが、38 角成を実現するに
は攻方が可成地域に角を打てないといけないの
で初手 92 角の遠打が成立するというわけです。

またポイントを上げているのが攻方は成り、玉方
は不成のコントラスト。見事としか言い様があり
ません。

【短評】

中村雅哉—狙いが明快に表現出来ている。好作。
橋本孝治—真 T 流遠角構想、偶数手ばか詰でも
冴え渡ってますね。角の成・生が先後で分かれて
いる事も作品価値を高めています。

★そろそろ真 T=遠打の法則が定着するかも
癒癒老人—遠打ちと思ったらやはりそうでした。
香箱—丁々発止の 9 2 角、8 3 角。かつこいい！
隅の老人 B—着想の妙。超短編でも、これだけ出
来る、素晴らしい。

小林看空—氏らしい遠打。配置が遠打を誘って
いる。

小峰耕希—協自系でもこんな手順はそうお目に
掛かれない。解后感最高！

飯山修—これは特に偶数手ばか詰めならではの
作品ではないでしょうか。9 二に角のある 5 手ば
か詰では作意まる見えです。

冬眠蛙—う〜ん、デリシャス。これはうまい。

KAMU—なるほどな玉方・攻方両方の遠角。お
もしろいです。

赤土陽—かなり苦労しましたよ。学生大会の日
に凶面を覚えてとこうとしたのですが、一筋左に
ずらして考えていたので、9 三から成限定かな、
などと悩まされ、独り相撲を取る羽目になってし
まいました。

★そういえば自作に先手 82 馬型で、91 角、28
馬、同角生、29 金までの作品があったのですが、
完成度が違いすぎました。とほほ。



第6番. 中村雅哉 作 正解者 12名

偶数手ばか詰 6手



【作意手順】

28角生 36銀 26玉 27銀 17玉 18銀打
迄 6手

【作者コメント】

攻めの要と見える駒を取る初手が狙い。駒数が増えて作品としては失敗。「偶数手ばか詰」創作の難しさを痛感しました。作品検討に際してはたかくぼんさんには大変お手数をお掛けしました。この場を借りてあらためて御礼申し上げます。

★作者から最初に投稿された作品は余詰でぼろぼろでした。私が FM 検討を担当し余詰→修正→検討→余詰→修正のメールのやり取りは何往復にもなりました。その際感じたのは、作者の描いた手順の実現に向けてぎりぎりまでこだわりを持つと言うことでした。私のように安易な妥協はしないんですね。これぞ一流作家という事を肌で感じたやり取りでした。

攻方の駒は 28 飛のみですが、要に思えるこの駒が実は邪魔駒というのが作者の狙いです。最初の図が余詰でぼろぼろでしたので私が 28 飛→香なら簡単に完全になる旨知らせると、作者はそれだけは譲れないというのです。そこからは余詰との戦いでした。2 手目 38 飛や、銀で置き駒をパク筋などかなり強烈な筋がたくさんあり悪戦苦

闘。何回もメールのやり取りをして何とか出題図まで辿り着いた。そんな感じです。出題図の守り駒は最善かどうかは分かりませんが少ない駒数で収まったと思います。

作意はいきなり初手 28 角生と攻方の置き駒を無くしてしまうのが意表の一手。あとはシンプルに収束ですが、かえって初手を引き立てる感じになったのは感心しました。

初形の 28 飛は無くてもよい駒ですが、28 飛を除いてみたらどうなるか？作意は同じで完全作ですが、後手の角以外の駒は全て要らなくなるのです。(下図参照)

詰将棋って面白いですね。



【短評】

橋本孝治一攻方無仕掛化。これは私もやってみていたと思っていました。一番強そうな飛で実現できたのがお手柄。

痲癩老人一今いち狙いがよく分からない。

香箱一邪魔駒消去。初手の駒取りは初めて見ました。

隅の老人 B一まさか、まさかの初手の駒取り。参った、参った。

小林看空一どうやっても詰みそうなのだがなかなか詰まない。詰んでも、余詰だな。と思いつつ、自分が作者なら、飛車を取るのにと考えたら、何とそれが作意だった。チェスプロブレム風。

もう一手妙手がほしいところだが、ないものねだり？

★チェスプロブレムと似た感じは確かにします。駒取りも見かけますよね。

真T—大苦戦。初手に駒取りは見たことないなど思ったいたのですが、ここにありました。完敗です。駒が多すぎでは？と負け惜しみを言っておきます。

小峰耕希—一見して「飛を取るんだらうな」と思ってしまったせいか、2手目以降の緩みが気になります。

飯山修—1七角以外すべて不要駒とはだれも考えませんよね。中村ブランド恐るべし。

★余詰防止で49角はいるようです。

冬眠蛙—なるほどそうきたかあ。流石。

KAMU—28飛さえなければ、もっと簡単に解けたはず。この28飛は心理的な邪魔駒？

赤土陽—持ち駒二枚で、六手だと合駒稼ぎはないので、飛車が使いにくいから、初手はすぐに分かりました。もう二手、逆算して、飛車で合駒稼ぎを誘ってみたいです。

★多分余詰防止がかなり大変

第7番. たくぼん 作 正解者 10名

偶数手ばか詰 6手

											▲なし
皇	皇	皇	皇	銀							二
				銀							三
銀											四
飛						角					五
		王	卒								六
						銀					七
		銀	卒								八
卒	卒			銀	銀						九

【作意手順】

79金上 96飛 86馬 同飛 77玉 59角

迄 6手

★投稿作にシンプルなものが多かったのもちょっと違った感じの作品を載せて見ました。なるべく紛れを消さないようにということばかり考えて配置しましたが最善の配置は果たして…。

今見ると78銀、69馬の配置は一考の余地がありましたね。中村さんを見習わないといけません。

【短評】

中村雅哉—手を付けにくい形だが、詰ますのに何が欲しいか、何が取れるかを考えれば割と易しい。

橋本孝治—当初は力づくで詰めようとして失敗。合駒制限の意味を考えればすぐに解けました。これと第10番が多分一番時間が掛かったと思います。

痲癩老人—不自然な位置に馬がいるので手は分かりやすい。詰め上がりはちょっと意外。

香箱—最後まで解けずに残ったのはこれ。66歩配置から合い利かずに洞察できなかった。

隅の老人B—打つ手は別にしても、初手は幾通りある？数える気がしないよ。あえない最後でしたね。

小林看空—合駒制限がすごい。59馬は無くしたいところだが。

真T—66の歩が大きなヒント。詰上がり66歩と78銀がないようにはできないのでしょうか。

★78銀は簡単に可能でしょう。

小峰耕希—この人は2手目54角を紛れに回すんだらうなと思ったら案の定。

★もうバレバレ

飯山修—この作品もさんざん考えさせられた挙く突然ひらめきました。あとからみたらずいぶんヒントが与えられているんですね。

★4桂を配置していないのは見え見えでした。

冬眠蛙—桂馬を置かないあたりが優しい(易しい、

ではないですよ) ですねえ。助かります。

第8番. 神無七郎 作 正解者5名

偶数手ばか詰 32手

										▲	角
										二	二
										三	
	桂	桂	香	香	香	桂	桂			四	
飛	銀	銀	金	金	金	銀	銀	飛		五	
歩	歩	歩	歩	香	歩	歩	歩	歩		六	
				王						七	
										八	
										九	

【作意手順】

28歩 29角 同歩成 89角 78角 同角
 47玉 69角 58歩 同角 同玉 59歩
 48玉 26角 37角 同角 39玉 17角
 28歩 48角 同玉 26角 37角 同角
 57玉 46角 47玉 36角 38玉 27角
 39玉 57角 迄 32手

詰上図

										▲	なし
										二	
										三	
	桂	桂	香	香	香	桂	桂			四	
飛	銀	銀	金	金	金	銀	銀	飛		五	
歩	歩	歩	歩	香	歩	歩	歩	歩		六	
										七	
				角			角			八	
				歩		王	王			九	

【作者コメント】

ある作の元ネタを偶数手詰に仕立て直したもの。
 奇数手で潰れた素材が、偶数手で再利用可能な
 ケースは多いと思います。

★何とこれが例題用に届いた1作。何気に解こう

としたが全然詰まない。何時間も考えた挙句数日
 後にやっと解けました。作者には例題には難しすぎ
 るので作品展にとメールしました。当たり前で
 すよね。精鋭の揃った解答者でも正解者5名の難
 解作でした。

とにかく頭3手を見て驚いて頂きましょう。

「28歩 29角 同歩成」

何も無い空間にポツンと歩を置き、その利きに打
 つ29角！ そして同歩成！

初形から玉方に角を渡して29とを発生させた頭
 3手。これしか32手で詰まないとは一体どう言
 う事か……

解図するには詰上りを想定するのがいいのです
 が、端のほうで詰ませたくるので意外とこの詰
 上りを想定するのは難しいようです。中村さんの
 短評にある詰上り型で56玉型では初手57歩以
 下どうしても38手かかってしまいます。16玉型
 はもっとかかります。(後手の持駒の歩を5枚取
 れば早い……作品としては成立しない)

詰上りが想定できれば、頭3手で29とを発生さ
 せてあとは28歩の発生だけで壁駒が出来ますの
 で手数内で詰ますことが可能になるわけですが、
 そうは言っても難しいことには変わりはありません。
 私もそうでしたがあとはひたすら駒を動かして
 ください。(笑……こんな解説あるのか?)

【短評】

中村雅哉—まだ解けません。

- ・56で詰ます形 (67と、58歩、57角、38角)
 - ・96で詰ます形 (96歩、88歩生、77角、78角)
- 果ては、99で詰ます形 (98歩、77角、67角で
 歩5枚を合駒で奪う……余詰筋だが) など
 色々目に映りますが、どれも手数が不足です。

別の形（9段目で詰ますなど）があるのかもしれませんがあまり考える気がしない。今のところお手上げですね。

★詰上りが想定できなかったんですね。分かっていたら解けていたでしょう。残念。

癩癩老人—17歩とか58歩を考える。前者は手数を縮めきれず。58歩は成らせるまでに手数がかかりすぎ。苦吟暫し、28に置けば1手で成らせることができるのに気づき思わず苦笑。歩切れにする順も結構かかりそうですね。ちょっとは考えました。（笑）

★歩切れ筋は面白そうなので1作出来そうな…
香箱—詰み形89と+88歩を作るには手数がかかり過ぎるぞ、と悩むこと暫し。初手88歩に気づいてきっかり32手。

隅の老人B—難しい、角だけでは詰まないことは分かっている。何処で、歩を手に入れる？そして最終図は？まずは、あれこれ、角と歩で最終図を考える。これかな、あれかな？続いて、初手に、玉の動ける場所は3カ所、歩の打てる処は、まさか、上辺はないだろう？で、6カ所。16歩は取れないね、排除、残りは5カ所。虱潰し作戦開始。夢か現か幻の、暇と根気の2週間、万歳！、解けた気がするぞ。こんな作品を考え出す七郎さんは、”凄いや”です。

★まさに正算式解図法。この解図法には頭が下がります。

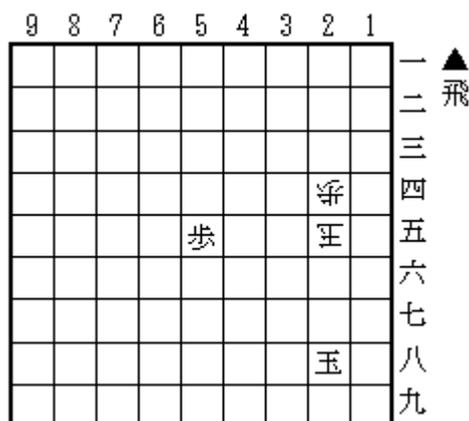
小林看空—ほとほと参りました。5筋に歩が立たないのは分かったけれど。傑作。

真T—詰上がりがなかなか見えませんでした。収束59歩があることで限定されてるのがすごいですね。

★59歩がないと27手目58玉～49玉のルートも成立しますね。

第9番. 伊達 悠 作 正解者 11 名

偶数手打歩ばか詰 6手



【作意手順】

26桂 45飛 35歩 同飛 16玉 17歩
迄 6手

【作者コメント】

お察しの通り、打歩モノです。でも実は、他のルールがくっついた打歩モノは色々創作しているのですが、単純な「打歩ばか詰」は始めてだったりします。法則系でもないのであっさりと解かれるとは思いますが、とりあえず作品展の方をお願いします。

★来年度から受験の為お休み予定の作者ですが、今しばらくは作品が押めそうです。

Mr.打歩と言われる作者の打歩ばか詰でしたが、法則系でもなく普通でした（笑）。17の地点に利かせない駒を26に打つことになり26桂はすぐに分かります。このタイプの作品は今回何作もありましたが、偶数手ばか詰では今後も出てきそうですので双玉の時は思い出してくださいね。

本作、解答者から突っ込まれたのが55歩配置。飛打場所限定のためだけのものなので、気になるといえば気になります。47飛配置位の方がよかったかもしれません。

【短評】

中村雅哉—単純なのに、なぜか考えさせられた。不思議な味の作品。

橋本孝治—作者名当てだったら「神無太郎」と誤答しそうな 26 桂。攻方王に触らないための弱駒配置問題ですね。

★作者当てなら多分誰も当たらないかも

癩癩老人—なし

香箱—なし

隅の老人 B—歩を取る、打ってお仕舞い。これは簡単。55 歩は作家の良心？仕方なしでしょうね。

小林看空—28 王の配置が巧妙。55 歩の配置が気のない感じ。仕方ない？

★みんな同じ感想です。

真 T—歩の配置でうまく限定していると見れるかどうか。

小峰耕希—もう一捻りあれば面白くなる素材だと思うのですが。

飯山修—なし

KAMU—横からの飛に気がつくのに手間どってしまいました。55 歩がもったいない感じがしますがしかたないかな。

赤土陽一—5 五歩の配置が 4 五飛車を打つてくれと訴えてきているので、後は初手を考えるだけでした。

★作品の内容より 55 歩の方に短評が集中するってどう言ったらいいのか？



第 10 番. 小林看空 作 正解者 9 名

偶数手打歩ばか詰 6 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲
									二
									三
									四
						王			五
						王			六
								歩	七
						角		玉	八
		継						香	九

【作意手順】

48 飛 58 角 37 玉 49 桂 38 玉 39 歩
迄 6 手

【作者コメント (11 番共)】

どちらも打歩なのですが、お許しを。
まだ感覚が(ぜんぜん)つかめておりません。

★看空氏から届いたのは法則物です。打歩ばか詰は攻方玉方とも打歩以外で詰めるのは禁手という事を利用します。

詰上図を見てください。

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲
									二
									三
									四
						王			五
									六
								歩	七
					角	継	王	玉	八
		継			桂	歩		香	九

最後同玉と取れそうですが、その時 48 飛があるので先手王が打歩詰以外で詰んでしまいます。よって禁手となるため同玉と出来ず、詰みというわけです。攻方は持駒 3 枚を打つだけです、初

手の 48 飛に気付けば問題なく解けるはずですが実はこれが結構難しかったようで、多くの解答者が苦戦した模様です。

まだまだ感覚が掴めないと言う作者ですが、今回は凄い作品を見せてくれることでしょう。

【短評】

中村雅哉—9月14日の例題を読み返して解いた。飛の横効きで逆王手の筋なのは明らかなので、どうやれば効きを殺さず逃げ道を封鎖できるかが問題。

橋本孝治—法則系とヤマを張ったものの、当初は27歩の筋を追って失敗。結局再下段の飛の役目は、桂の打ち場所の限定だけですか...うーん。**癩癩老人**—間違えそうになりました。よくできると思います。

香箱—打歩以外禁を利用してるので、ば自の感覚。
★先手玉の詰みも考えないといけないので「ばか詰+ばか自殺」作品かな

隅の老人 B—初手はともかく、後は打てば終わるはず。これが解けない、“クソッ”、苦考。法則問題は難しい。

真 T—法則型と分かっているのに苦戦しました。

小峰耕希—駒を打って行けば良いので比較的わかり易いですが、構成の巧さは真T作に次ぐ2位。

飯山修—なし

赤土陽—てっきり2六で詰ますものとはばかり思っていたんですが、1八に玉がいて何も動かないことから、玉方の「打歩以外の詰は禁手」を利用することに気づきました。角に向かってまっすぐ下りてくる玉の圧力は相当ですね。



第11番. 小林看空 作 正解者9名

偶数手打歩ばか詰 10手



【作意手順】

24歩 37桂 44玉 36桂 33玉 24角
23玉 35桂 14玉 15歩 迄 10手

詰上図



★歩をどこで入手するのかを考えないといけない。合駒で歩を入手するのは手数オーバーですので、初手に歩をどこかに置くのが正解。桂で取ることを考えれば25当りに置いてみたいのですがそれではダメ。詰上り24角型が想定できれば一石二鳥の24歩が浮かぶことでしょう。やはり詰上り想定が解図の大きなポイントになるんですね。解答者にも絶賛の桂の柱は詰上り図を見たら分かりますが美しい形ですね。

【短評】

中村雅哉一詰みそうで詰まず、難しかった。考えられる最終形を書き出して、そこから逆算で解いた。

★私もいつもその方法です。また桂が持駒の場合は桂の打ち場所が非限定にならないように考えるのも1つですね。

橋本孝治一步を合駒や桂で取ることに固執すると難しい。(実際それで手間取りました) 解けてみると綺麗な桂の柱が出現。

★桂で取りたくなりますね

癩癩老人一なし

香箱一最終形が想像しやすかったので広いように見えて案外狭い玉。

★この方本当にお強いです。

隅の老人B一桂を打つだけで6手かかる、残りは4手。歩を合駒させると12手必要。10手詰、初手は歩打に決定です。

真T一步を角で取るか、桂で取るかが悩み所。

小峰耕希一無解。

飯山修一5-7番の後だと9-11番は比較的解けやすくなっているのはやはり学習効果かな。

★う〜む。お強い

赤土陽一一桂馬が三枚ありますから、全部打って、歩を取って、打つ手で十手になるので簡単なはずですが、十二手で浮かんだ詰上がり図から離れられず、困ってしまいました。詰上がりは、桂馬がによきによきと伸びた霜柱みたいです。

★簡単なはず・・・に何度だまされたことか・・・



第12番 神無太郎 作 正解者7名

先手、後手の駒をそれぞれ1枚ずつ盤に追加して完全作にせよ。

打歩ばか詰 2手



*追加する配置と詰手順をお答え下さい

注: 推理将棋風バージョンは出題稿をご覧ください。

【作意手順】

攻方 43王、受方 42角を追加



97角成 42歩 迄 2手

★太郎さんの推理将棋風出題には笑わせてもらいましたが、さすがに身内受けというわけで、日記を読んでいない方には分かりにくかったようでやや反省。問題自体はかなり面白い内容です。たまには創る感覚も味わうのもいいでしょう？ただ完全作にするというのがなかなか一筋縄ではいかないようで敬遠された解答者もおられま

した。たとえば先手 43 金を置けば、次に 42 歩で打歩詰になります。2 手詰ですので玉方から指し始めるわけで初手が限定できず(完全作ではないということ) ダメです。つまり普通の配置では 1 手目の限定が難しいのです

作意手順は

97 角成、42 歩ですが、最後同馬はその時点で先手が打歩以外で詰んでしまい出来ず。よって詰上りというわけ。法則系作品だったんですね。角を 42 以外に置くのは、97 角成以外に 42 の地点の利きを外す位置に移動する手が生ずるので 97 角成に限定できません。

詰上がり私にちなんで「T」よく出来ていると思います。

【短評】

中村雅哉—最初は問題の意味が理解できなかったが、作意は明快な手順で買える。問題文はさすがに長すぎる。

★今後は意味を理解できるよう日記と詰四会報を熟読してくださいね

橋本孝治—最初から法則系と思っていたので簡単でした。Tの字の飛角図式なので、作図問題や文章問題にせずそのまま出題しても結構受けたと思います。謎として残ったのは文中の「すすむ」「とおる」の由来ですね。誰かの名前のパロディでしょうか？

★さあどうでしょうか？太郎さん

痲癩老人—なし

香箱—小生は解答専門ですが、創作に半分参加したような気分を味わえました。

★是非創作もいかがですか？

小林看空—少し自信がない。題意を読み違えているやも知れず。

真 T—成限定が巧いですね。作品も面白いですが、問題文も楽しめました。

小峰耕希—解よりも出題文の方が面白い！？

(解図日記・詰四会報マニアじゃないと意味不明でしょうが)

★お二人は染まってますね。うれしいです。

【総評】

橋本孝治—易しくても、ちゃんと狙いのある作品が集まっていたので、なかなか楽しい作品展でした。そのうち、偶数手で表現するか奇数手で表現するかは、作品推敲時の当然の選択要素となり、偶数手ばか詰から「偶数」の注釈が取れる日もそう遠くないと思います。

★いつも偶数手と書きながら、手数見ればわかるんだけどと思ってました。先手からか後手からか問題になるかも

痲癩老人—難易度的には少し物足りないか。次回に期待です。

★いや〜恐れ入りました。次回はどうなることか
香箱—ようやく全題解けました。7 番、相当手こずりましたよ。

★気を使っただきありがとうございます(笑)

隅の老人 B—どの作品にも、初心の私には、創作者のヒラメキを感じる。初手を教えて貰っても、たぶん、長時間かかります。たまには、ヒントも出してよ、お願い、たくぼんさん。

★個人的にメール下さい(うそうそ)

小林看空—次回は愈々奇数手自殺詰ですかな。。

★相変わらず自殺系は苦手ですので・・・

小峰耕希—最近、受先は協力系より協自系の方が面白いのではという気がして来ました。で、只今某ルールで全検作戦実行中。出題出来そうな図も得られました♪

★楽しみです。

飯山修—大変楽しませていただきました。間違いなく新しいジャンルとしてすぐ認知されると思います。回答者が多いといいですね。

★おかげさまで 13 名の方から解答を頂きました。

隅の老人 A— 4 手詰 2 題だけですいません。全題、目だけは通しています、特に推理風の会話も。

★解けたものだけでもいつも書くのですがなかなか送ってもらえないのが実状です。

冬眠蛙— 途中までですが時間切れなので解答送信いたします。

★大変でしたね。次回は全題お願いしますね

KAMU— たくぼんさんのは解きたかった・・・、残念。これぐらいの難易度だと手が出せますね。次回があればもう少しちゃんと時間をかけて解きたいですね。

★詰工房で解かれた？とお聞きしたんですが・・・

赤土陽一— 遅くまで粘ってみました、全問解答とはいきませんでした。なので解けた分だけ送ります。

★ありがとうございます。次回もよろしくね。

【解答成績】 全 13 名

全題正解: 橋本孝治、癩癩老人、香箱、小林看空、真 T

11 題正解: 隅の老人 B,

10 題正解: 中村雅哉、飯山修、小峰耕希

9 題正解: 赤土陽一

7 題正解: 冬眠蛙、KAMU

2 題正解: 隅の老人 A

皆さん解答ありがとうございました。では第 2 回でお会いしましょう。

たくぼん